



社会 所大 像 像 毎月十五日発行 所大 像 像 毎月発行 宗像 宗像 電話 0940-62-1311 定価 一年送料共 1000円

# 沖津宮現地大祭齋行

## 碧海に浮かぶ海の正倉院『沖ノ島』



神聖なる神の島「沖ノ島」で年に一度の「現地大祭」が盛大に度行された。初夏の潮香る五月二十七日、沖津宮現地大祭は齋行され、日本海を命を賭して国の為に戦った人々の英霊を称え、国家皇室の安泰・国民の繁栄・海安全・漁業繁栄とが祈念された。この現地大祭は、遠く明治三十七年に遡る歴史がある。明治三十七年、日本は世界の大ロシア帝国との満州、朝鮮の制覇を争い日露戦が開始した。

この大祭は日本海軍が大勝利、この日露戦争の終結を早めた世に有名な日本海軍である。東郷平八郎大将とともに名を博した人であることは言うまでもない。その後この大祭を御神助と仰がれた東郷元帥は沖津宮に「神光照海」の軸と旗艦三笠の羅針儀を奉納された。そして明治三十七年五月二十七日を「海軍記念日」と定め、昭和十一年終戦まで記念日としていたのだが、戦後はこの記念日も廃止された。当社では以後この日を「現地大祭」と定め、毎年一度の現地(沖ノ島)に於ける大祭として一般崇敬者の渡島を許可している祭日である。



祭典終了後、太田宮司より明日の大祭齋行の意義、升谷恭宜より渡航に際しての総括説明がなされ、更に各班に分かれて担当の神職より入念なる諸注意が行われた。

しかし、この日は風雨共に強く、明日の渡島を一同心配し、落ち着かない一夜を過ごした。大祭当日、昨晩心配された雨もなんとか小雨という渡島出来たであろうという天候まで回復した。しかし、空を見上げれば雨雲が立ち込め、いつ雨が降ってもおかしくない状況ではあったが、午前六時 福岡海上保安部灯台巡視艇「げんこう」を先頭に同巡視艇「みやづき」、大島、沖津宮渡航船「しおかぜ」、大島漁協所属漁船第八宮地丸、海菜丸、威徳丸にそれぞれ乗船した。

午前十時現地大祭齋行、大勢の崇敬者の中祭典開始の太鼓が巨響の立ちほだか神前には数多くの献酒・献品が供えられ、太田宮司が日本海軍で戦った人々の威徳にそれぞれ乗船した。

午後十時三十分、沖ノ島を出港、天候が良かった為、島を一周して一行は大島へと向かい、本年度の現地大祭も厳粛、盛大に無事終了した。

午後十時三十分、沖ノ島を出港、天候が良かった為、島を一周して一行は大島へと向かい、本年度の現地大祭も厳粛、盛大に無事終了した。

- 五月一日(土) 月次祭 平成十一年度会計監査奉養奉納披露開催 (二日・五日) 五月三日(日) 中津宮龍宮祭 五月五日(水) 五月・浜宮祭 玄海町町長、木村久生 玄海町町長、木村久生 権田要助氏当選挨拶 五月八日(土) 歌手、橋幸夫氏同令夫人参拝 五月十日(月) ヤマト運輸福岡岡主管 支店支店長原良和氏 外六十名参拝 五月十二日(水) 横浜出光会長山田英夫氏、出光産産横濱支店長佐藤秀一氏以下 四十五名参拝

- 五月十一日(金) 宗像大社責任役員会 五月十二日(土) 九州燃料株式会社取締役竹内秀夫氏社長就任奉告祭 五月十四日(月) 広島護国神社権柄宜祭 儀部長潮康史氏外八名参拝 五月十五日(火) 島根県立風土風土記の丘博物館学芸員来社 五月十六日(水) 北沢八幡宮司矢島嗣久氏参拝 五月十七日(木) 多摩大学経営情報学部 長松浦敬紀氏参拝 五月十八日(金) 出光石油化学(株)徳山工場エナレシ課長永田憲治氏外五名参拝 五月十八日(金) 旧制宗像中学校二十三回生、十四回生同窓会代表伊豆善也氏外十九名参拝

民の幸福・海上安全・漁業繁栄を祈る祝詞を奉し、次に佐藤沖・中岡泰賛会々々玉串を捧げて、敬虔な祈りの中祭典は無事滞りなく終了した。そして太田宮司より現地大祭の意義と参列の御礼を兼ねて挨拶を行い、高向権祐宜より沖ノ島祭齋行の説明がなされた。参拝者の方々は祭典終了後、沖ノ島の祭祀遺跡や灯台などを見学し、波止場で真会を行い、奉仕船の漁師さんらに準備してもらった煮魚・刺し身などの玄界灘の新鮮な海の幸に舌鼓を打ちながら神の島のひとつときを過ぎた。

- 五月二十日(水) アポロホームガス関東(株)代表取締役平瀬哲男氏参拝 五月二十一日(木) サントリー美術館員来社 五月二十二日(金) 宗像大社責任役員会 五月二十三(土) 九州燃料株式会社取締役竹内秀夫氏社長就任奉告祭 五月二十四(日) 広島護国神社権柄宜祭 儀部長潮康史氏外八名参拝 五月二十五(火) 島根県立風土風土記の丘博物館学芸員来社 五月二十六(水) 北沢八幡宮司矢島嗣久氏参拝 五月二十七(木) 多摩大学経営情報学部 長松浦敬紀氏参拝 五月二十八(金) 出光石油化学(株)徳山工場エナレシ課長永田憲治氏外五名参拝 五月二十九(土) 旧制宗像中学校二十三回生、十四回生同窓会代表伊豆善也氏外十九名参拝



昭和二、三十年代の頃、時代小説大ブームになった。「柳生武芸帳」と云う五味康祐著の小説である。その中に柳生宗冬が義園となり女装して京都に入る場面がある。「柳生武芸帳」では、柳生新陰流は「忍」の剣で真柳生と呼ばれ、忍者集団であった。ゆへに変身する術があり男性が女性に姿身する、その「くの」に宗安が、父但馬守宗短と兄十兵衛の手で歯くきを切られ「お蘭」総入道で女装して活躍するのである。なぜ「武芸帳」のことを書いたか云々と、先日新聞コラムの「宗冬の義園」と云う文を読み、この小説を思いついたのである。

### 現地大祭御札

沖津宮現地大祭におきましては、大島村氏子の皆様を始め、全国の崇敬者の方々より誠心からなる御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。お蔭をもちまして、本年の祭典も無事厳粛・盛大に齋行することが出来ました。ここに誌面をかり、謹んで御礼申し上げますと共に、皆様方の益々の御賛を心より祈念申し上げます。

平成十一年六月吉日 宗像大社社務所 各位

六月四日は「中園防衛」である、その日のコラムから抜粋して載せたい。宗冬の義園は昭和二年、東京・下谷の広徳寺にあった柳生家墓所の改葬のさい、宗冬の遺体を納めたための中から発見された云々。宗冬の没年は延宝三年(一六七五)である、今から二百二十年余前に「上下総義園」があったとしても作者は、当時江戸日本橋の人形町に住んでいた蘭医者・小野玄人であることまで明らかとなつていく。この、義園の床は黄楊の木で作られ蜘蛛の歯が細工されており、木床の裏はうしろ張り、本堂の歯としか思えないような見事さ云々。この蘭医者・小野玄人は徳川家康の義園も作ったと伝えられている。

### 夏越祭・大祓神事御案内

梅雨時期に入り、暑い夏もそこまで来ています。授て、恒例の夏越祭が近づいてまいりました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ、心身の罪・穢を人形に託して祓除し、清々しい気持ちをもって明日の生活を安らかにするための祈りを込めたお祭りでもあります。本年お記により齋行致しますので、皆様お誘い合わせの上御参拝下さいませ。御案内申し上げます。

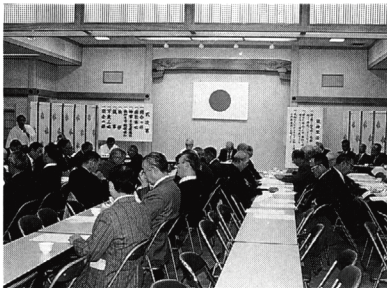
六月吉日 宗像大社 崇敬者各位 記

一、七月三十一日 午後五時、大祓神事、引続き夏越祭 宗像大社形代について 国宝 滑石人形

当社では、古く一千数百年前から、交通安全や身体安全を祈つて多くの人形・馬形・舟形などが供えられております。このことは、宗像大社が道主貴あらゆる道の神様として多くの人々から厚く信仰されていた永い歴史を物語るものであります。



# 平成十一年度 宗像大社氏子会総代総会

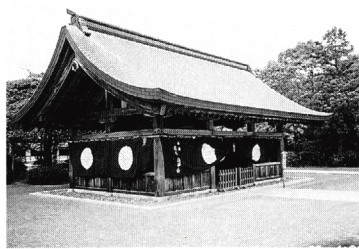


宗像大社氏子会総代総会、去る五月十三日(木)午前十時より、当大社清明殿に於て開催された。

本日の議案の審議へ入り、議事では、先ず平成十一年度の氏子会事業報告並びに決算報告を事務局が行い、続いて平成十年度氏子会決算監査報告を、原簿監事より先月会計監査を行ない、決算書の通り相違ないことを報告し、承認された。

## 祓舎に紫幕奉納

神郡宗像の里に日々新緑が深まりつつあった五月十八日、本殿に於いて祓舎紫幕奉納奉告祭が午前十一時より斎行された。



当大社の祓舎は昭和四十四年から四十六年に引かれ、昭和の大造営の際に御造営されたもので、神門前に恒例祭の際に神職、参列者が参集、神事の奉仕に先立ち、修祓を行ない、心身の清浄修祓を行う祓舎の紫幕が、昨春秋祭に連華会の佐々木恵美子氏より奉納された。

このように紫幕を奉納された連華会、佐々木恵美子氏に参集した後、当社太田宮に参集し、感謝状と記念品が贈呈された。

そして最後に平成十一年度氏子会費取り纏め依頼の件、氏子会規約、組織、運営、会費等の説明が行われ、天の橋立等見学、に決定、期間は、六月二十七日より三十日迄の三日四日の日程で、参加申し込みは事務局を窓口とする事で了承し、多数のご参加を賜りますようお願いいたします。

## 宗像大社奨学生日より

宗像高校3年 耕大福間中卒

約2年前、僕は高校進学で兄も大進学という時期に、父が職を失くしてしまいい、これからどうして行くのか不安だった。父ももう五十歳にもなるので、そんな簡単に職が見つかるはずもない、ひょっとしたら僕が、学校に行きつてもアルバイトをして、家計を助けて行かなければならぬかもしれないなど、大それたことまで考えていた。そんな時、宗像大社の奨学金と出会った。暗い未来に少しだけ明るい光がさしたような気がした。

今、僕は高校生活を、青春を大いに楽しんでいる。これというのも宗像大社奨学金制度があったからだと言っても、決して過言ではない。僕は、この制度をずっとサッカークラブで使ってきた。趣味と部よりもっと、生活の一部であったサッカー。しかし、状況が状況だけに高校では諦めようかと思っていた。そんな時、宗像大社の奨学金をいただいた。サッカークラブというお金がかかるとのこと、お金がかかるもので、とにかく、服なんてすぐに破れてすぐに買い直さないといいなかつたのだが、その費用に、宗像大社の奨学金はなつてくれたのだ。おかげで今僕はサッカーを続けている。

今、僕は高校生活を、青春を大いに楽しんでいる。これというのも宗像大社奨学金制度があったからだと言っても、決して過言ではない。僕は、この制度をずっとサッカークラブで使ってきた。趣味と部よりもっと、生活の一部であったサッカー。しかし、状況が状況だけに高校では諦めようかと思っていた。そんな時、宗像大社の奨学金をいただいた。サッカークラブというお金がかかるとのこと、お金がかかるもので、とにかく、服なんてすぐに破れてすぐに買い直さないといいなかつたのだが、その費用に、宗像大社の奨学金はなつてくれたのだ。おかげで今僕はサッカーを続けている。

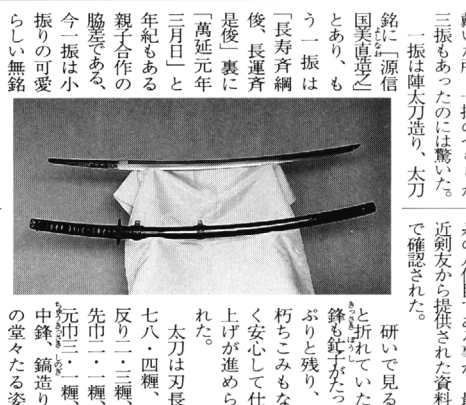
## 大社の奉納刀

仙 寿

一話(78)

古代豪族の奥津城(2)

楽 杏 子



熊本忠虎尾市住の西辻氏より、終戦時預りの奉納刀を返納するとの申し出があり、平成五年七月四日、暮雨の中、太田権吉司現宮司、松本孝彦課長と共に荒尾市まで取りに赴いた。氏は終戦当時、宗像大社に神官として奉職していたの事、世間話もそこそこの、当の刀剣を見せて戴いた所、一振のつもりが三振もあったのには驚いた。一振は陣太刀造り、太刀銘に「源信 国美忠重」とあり、もう一振は「長寿齋綱」とあり、長壽齋綱は、長連齋俊、長連齋俊、裏に「萬延年三月一日」と年紀もある親子合作の脇差である。今一振は小振りのお可愛らしい無銘の剣であった。

宗像地方も福岡市に近接してあり、益々副都心的様相を表わしてきている。昔は村々の各部屋ごとに、山裾に沿って住居を構えていたが、近年平地も造成され住宅が急速に増え続けている。先年、宗像市が市史編纂に伴ない、地質地形調査を行う時、それによって、縄文時代の四千七百年前には、海原線が内陸に深く入り込み、宗像大社の横を流れる釣川は河川ではなず、広い入江であった。海も宗像市須恵あたりまで入っていた。また津屋崎町側の浜辺も、玄海町側の浜辺も、砂丘をなし、その裏手は干潟なす浅瀬が、広く長い入江であった。新たな海岸線を形造っていた。

このように、宗像地方の地形をみながら考えると、古代宗像の中心地が、今の海岸線からは若干奥まっているが、宗像の北辺、今の宗像大社の辺りであったことは否めない。このことから推定しても、北郷が無かったことが分かる。

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

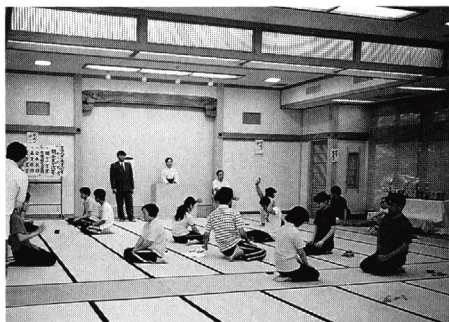
宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

宗像大社奨学生日より(続き)

第二十三回 宗像大社

小倉百人一首 「かるた大会」



中、山口 貴志選手がついに優勝の栄誉を手にし、見学者全員から惜しみない祝福の拍手が送られると同時に、次回の熱戦を約束する熱い力強くも会場にみぎまぎしていた。

各級・各部の成績表

- 各級・各部の成績表
A級(四段以上)
優勝 山口 貴志 (横浜集会所)
二位 田畑 謙 (九州かるた協会)
三位 橋本 いづみ (九州かるた協会)
四位 西 剛志 (九州かるた協会)
五位 土屋 さか (鹿児島県かるた協会)
四位 石沢 直樹 (大津あのだ会)
四位 橋本 智子 (大津あのだ会)
四位 松本 美加 (九州かるた協会)
B級(二・三段)
優勝 渡司 浩二 (鹿児島県かるた協会)
二位 片山 公博 (熊本県かるた協会)
三位 立花 麻子 (九州かるた協会)
四位 西川 まゆみ (小学生Bパート)
五位 森山 絵理 (大分・大鶴かるた会)
C級(一段以下)
優勝 隈部 尚子 (徳島県かるた協会)
二位 中村 麻子 (九州かるた協会)
三位 深見 有貴 (大分県かるた協会)
四位 吉武 正史 (徳島県かるた協会)
D級(高校以下)
優勝 中村 麻子 (福岡・筑紫学園高校)
二位 後藤 維大 (熊本第一高校)
三位 吉田 悠平 (大分・中津かるた会)
四位 高橋 章夫 (熊本・上益城かるた会)
五位 村上 隆太 (熊本第一高校)
三位 岩井 浩子 (福岡・九州大学)
四位 田代 真琴 (熊本北高校)
E級
優勝 田上 瑠美 (熊本・上益城かるた会)
二位 山村 真琴 (熊本・上益城かるた会)
三位 阿比留 舞 (福岡・ひばりが丘2区かるた会)
四位 末吉 なな (大分・中津かるた会)
五位 小學生Bパート (大分・大鶴かるた会)

新人紹介

宗像大社は一年前の正月に助勤に訪れ、この風光明媚な玄海の里、そこで暮らす人々、そして宗像大社に憧れやって参りました。私の特技として野球が大好きです。小学校四年より野球を始め、中学、高校、大学と野球一色の生活を送ってまいりました。神職人生がスタートしたばかりで、分からない事ばかりで戸惑うことが多い毎日ですが、新しい発見や感動もしています。野球らしく直球勝負で理想の神職を目指し、神門奉仕に励んでまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

昭和三十二年 五月四日生 19才
今年四月が奉仕させて頂くことになりました。権田綾子
御願致します。

昭和三十五年 五月十七日生 18才
四月から奉職させて頂いておりました。折尾聖学院を卒業致しました。入社して三カ月で宗像大社奉仕するとい大変な身になって感じています。七月からは本職として奉仕させて頂いたわけですが、神社用語や行事、作法などまだまだこれからが私にとっての勉強だと思います。一人前の巫女として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

昭和三十五年 五月四日生 19才
今年四月が奉仕させて頂くことになりました。権田綾子
御願致します。

昭和三十五年 五月十七日生 18才
四月から奉職させて頂いておりました。折尾聖学院を卒業致しました。入社して三カ月で宗像大社奉仕するとい大変な身になって感じています。七月からは本職として奉仕させて頂いたわけですが、神社用語や行事、作法などまだまだこれからが私にとっての勉強だと思います。一人前の巫女として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

昭和三十五年 五月十七日生 18才
四月から奉職させて頂いておりました。折尾聖学院を卒業致しました。入社して三カ月で宗像大社奉仕するとい大変な身になって感じています。七月からは本職として奉仕させて頂いたわけですが、神社用語や行事、作法などまだまだこれからが私にとっての勉強だと思います。一人前の巫女として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

昭和三十五年 五月十七日生 18才
四月から奉職させて頂いておりました。折尾聖学院を卒業致しました。入社して三カ月で宗像大社奉仕するとい大変な身になって感じています。七月からは本職として奉仕させて頂いたわけですが、神社用語や行事、作法などまだまだこれからが私にとっての勉強だと思います。一人前の巫女として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

昭和三十五年 五月十七日生 18才
四月から奉職させて頂いておりました。折尾聖学院を卒業致しました。入社して三カ月で宗像大社奉仕するとい大変な身になって感じています。七月からは本職として奉仕させて頂いたわけですが、神社用語や行事、作法などまだまだこれからが私にとっての勉強だと思います。一人前の巫女として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

昭和三十二年 五月四日生 22才
今春、皇學館大學文学部に進学し、神道学科を卒業し奉職いたしました。大塚宗延

昭和三十五年 五月四日生 19才
今年四月が奉仕させて頂くことになりました。権田綾子
御願致します。

昭和三十五年 五月十七日生 18才
四月から奉職させて頂いておりました。折尾聖学院を卒業致しました。入社して三カ月で宗像大社奉仕するとい大変な身になって感じています。七月からは本職として奉仕させて頂いたわけですが、神社用語や行事、作法などまだまだこれからが私にとっての勉強だと思います。一人前の巫女として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

昭和三十五年 五月十七日生 18才
四月から奉職させて頂いておりました。折尾聖学院を卒業致しました。入社して三カ月で宗像大社奉仕するとい大変な身になって感じています。七月からは本職として奉仕させて頂いたわけですが、神社用語や行事、作法などまだまだこれからが私にとっての勉強だと思います。一人前の巫女として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

昭和三十五年 五月十七日生 18才
四月から奉職させて頂いておりました。折尾聖学院を卒業致しました。入社して三カ月で宗像大社奉仕するとい大変な身になって感じています。七月からは本職として奉仕させて頂いたわけですが、神社用語や行事、作法などまだまだこれからが私にとっての勉強だと思います。一人前の巫女として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

昭和三十五年 五月十七日生 18才
四月から奉職させて頂いておりました。折尾聖学院を卒業致しました。入社して三カ月で宗像大社奉仕するとい大変な身になって感じています。七月からは本職として奉仕させて頂いたわけですが、神社用語や行事、作法などまだまだこれからが私にとっての勉強だと思います。一人前の巫女として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

昭和三十五年 五月十七日生 18才
四月から奉職させて頂いておりました。折尾聖学院を卒業致しました。入社して三カ月で宗像大社奉仕するとい大変な身になって感じています。七月からは本職として奉仕させて頂いたわけですが、神社用語や行事、作法などまだまだこれからが私にとっての勉強だと思います。一人前の巫女として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

第四五六回 宗像大社歌会詠草

大野 展男 選
朝野 藤井 浩子
早苗田の広がりの中白鷺の
点々と佇み緑々したつ
土穴 瀧口 敦子
五分咲の桜に鶉の番米ぬ密
を求めて梢をゆらす
武丸 中村 さつき
二度三重重痛癒えし吾なり
き医学の進歩に感謝し生き
る
福間 中村 勇
ながく飼ふ目白四羽を野に
返す一羽がなかなか龍より
出でず
大島 越智 治子
新緑となりし島山いづこに
も山藤の花のむらさき光る
田野 森 つるの
長雨・若生ふ柿の太木に軒
しのぶの株勢ひのよし
古賀 森 みどり
叱りおき蔵に入れをおきな
児をそとと覗けば祖父の顔
あり
池田 小田 いせ
藤の咲く五月は吾子の命日
ぞその花見つづき哀生思ふ
曲 天野 玲子
通学路声高に行くと子供らの
白き帽子に夏を思へり
城南ヶ丘 中間日出子
時々は通訳の要る孫入園し
喜んで行くと聞いて嬉し
光岡 竹浦 葛明
晴れし日を二匹の子犬戯れ
て紫雲英咲く田を駆け廻り
お
吉留 高山 信子
わが門に翩翩とひるがえる
日章旗日本の歴史学びてよ
来て小さき島の一日始まる
大島 杉田 禮子
朝まだき浜に漁夫らの帰りに
来て小さき島の一日始まる
田野 森 甲子
ひとつばたの原生林のある
と言ふ対馬に行きたし花の
咲くころ
(評) なんじやんじやんと
も言はれる珍しい花。対馬
の鰐浦には天然記念物でそ
の見事な故に、海照らしむ
も呼ばれている大群落があ
るとつばたは咲く浦潮の濃
かりけり
海照らし咲いて対馬の北岬
などの石原八束の句は有考
その花に感こころをか立て
ている作者には共感を呼ぶ。
原 町 八波 五月
独逸語も英語も読めぬ母我
に学位の主論文送りて呉れ
ぬ
(評) ドクター論文だろ
うか、老いた母を励ましため
に敢えて送ってきた学位論
文、それを「読めぬ母我」と
と素直に述べる作者。母と
子の心の交流のまがみ見え、
小説の一シーンのような一
首である。
名古屋 小田 留子
ライバルと思へどライバルに
はあらずこんな形の夫と吾な
り
(評) ライバルとは小田
喜一さん。励み合いながら
歌を作っている二人、お互
に負けまいとする気持がある。
しかし「ライバルにはあらず
とする心優しい妻でもある。
益々の健康を期待すると
共に拍手を送りたくなるお
二人である。
自由ヶ丘 細川 穂子
湖に睦まじくあし二羽の鴨
今朝は見えず心寂し
光岡 竹浦 葛明
晴れし日を二匹の子犬戯れ
て紫雲英咲く田を駆け廻り
お
吉留 高山 信子
わが門に翩翩とひるがえる
日章旗日本の歴史学びてよ
来て小さき島の一日始まる
大島 杉田 禮子
朝まだき浜に漁夫らの帰りに
来て小さき島の一日始まる

### 宗像大社歌会 俳句作品集 四三二

藤 沢 井上 玄洋  
暎ましく大沈沈 鯉のぼり

福間 森 清  
犬を見し顔の定める新人見

自由ヶ丘 細川 絹子  
つるのびて宙にゆれるも鉄  
線花

日の里 花田いつ枝  
ホテルてお校舎高々夏燕

小笹 山下しづえ  
アイサーピス鯉のぼりすみ  
七夕え

東郷 吉武 湧泉  
青き元新興住宅職立つ

東郷 中野 きみ  
春愁や博多人形首細き

東郷 吉田 杢子  
藍染の暖簾をくぐり新茶買  
ふ

東郷 吉田 杢子  
一碗の汁に浮きたる芹青し

東郷 三浦美代  
春先やきしみながらも車井  
戸

東郷 田中 雨葉  
水馬野に沼一人家なし

東郷 木原 房子  
若草の萌ゆる起伏や大阿蘇  
野



## (続) 淡の寄物

137

いしいただし



前回は南紀を旅行して、太地を見たニューギニアのお面やカービンのことについて書いた。はるばるニューギニア(バブアニューギニア)か、イランジヤあたりに、海を渡って来た生徒が拾ってきたものである。天に一本は近づいた島として、ニューギニアの旅行者の土

産が棄てられたものか、その辺がはつきりしない、数年前、宗像郡津屋崎町勝浦浜で漂着した彫像は、ニューカレドニアのヌメアのもの、海を渡って来た生徒が拾ってきたものである。天に一本は近づいた島として、ニューギニアの旅行者の土産品である。三月と四月に二つの戦争映画を観た。あのスバルパークの「フレイム・ライオン」で、舞臺は第二次世界大戦ノルマンディー上陸作戦、オマハビーチに上陸する米軍を陸側からドイツ軍が機関銃、大砲等で狙撃している。海に銃弾が走る場面の映画はなかった。最初の大陸作戦の工兵分隊は話題にならなほどのものである。阿鼻叫喚である。戦い終わって、ビーチの波打ちざわには累累たる死屍、血の海、そして魚の死骸もあった。驚いた。スバルパークの芸のこまかいところである。この映画アカデミー賞を数

部門でとった。もう一本は、テレス・マリックの「シン・レッド・ライン」。舞台は太平洋戦争のガダルカナル島、日本軍の激戦の一つ、日本軍は三万二千を投入、戦死又は餓死、病死者一万一千人、それにこの作戦での艦船、航空機を失い、人的物的損失を、受けが島作戦は中止された。アメリカ側からは東京行と呼ばれた。日米の戦いだから映画では日本軍を悪くあらわす。戦闘場面もすごいが一人一人の兵士の描写、軍隊内部の対立、人間関係、故郷の母親、若い妻等、ふつと激戦から離脱し描かれる。熱帯林の川の中を素敵行動をしながら、木漏れ日、風にそよぐ草むら、蝶、鳥、ワニ、熱帯林のシンボル板根等のワンシーンが狂気の戦場であって、詩的に描写され不思議な雰囲気をかもし出す。戦いが終わって部隊交代のラストの部分では海岸に流れ着いたヤシが芽を出しているのが終わる。全体的には静かにフイオールの「レイクエム」など鎮魂曲が流れている。人間の正義と狂気の間を隔てる一本の細く赤い線である。この映画も話題となりアカデミー賞の部門をとっている。五月七日、沖ノ島現地大祭に参加した。前後の猛烈な雨、渡鳥は無理ではなかと心配されたが、朝には風も雨もやみ、前後の大荒れがうそのようだった。海のかなたから流れ寄る物たちが語る民俗や歴史、最近には漂着物の変化も著し。朝日新聞天声人語五月二日付、「新編漂着物事典」を繰ると、時間のたつのを忘れる。あいにく海までは遠い。「連休は分厚いこの本で遊ばせてもらおう。」週刊文春五月二日号、私の「読書日記」池澤夏樹「漂着物事典」の新編が出た。「前の版を持っていたのに、新しい版が出る、ついでにまた読む。読ませるだけの力のある美しいエッセイ集なのだ。」定価三八〇〇円十税。

### 青柳種信著 瀛津島防人日記(下巻ノ九)

いにしへの辺津宮より爰に迂り玉ひしは、後深草天皇の建長年中(一一四九)五心、大宮司四十八世長氏といひし人のゆめに、神の告ありて田島に迂り玉ひしといふ。御前にぬかづきて、

すべらきの

御世守らんと久かたの

天より爰に降り

たまひつ

宮人にこひて神宝を見る

社記あり。その中に、

西海道風土記曰、

宗像大神、自天降居瑠門

山之時、以寶鏡玉(一本

に八尺紫色玉とあり)置奥津宮之裏、以八坂瓊葉玉置中津宮之裏、以此三表成神体之形、因日身形那、後人改曰宗像、其大海命、子孫、今宗像朝臣等是也。云々

人皇第七代孝靈天皇四年

仁、自出雲國磯河上、筑

紫宗像仁御正宮、第一神

者、集海淡築、嶋、示居

於遠海之原、末來際可降

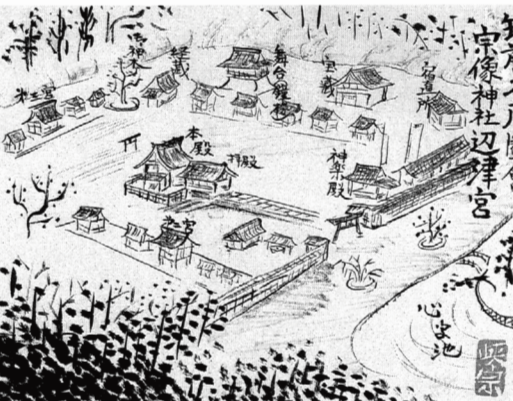
伏異國之由、有御誓留、

件鳥(迨、則号息御鳥、

是日本与高麗中間也、

居遠漢、是於奉号田心姫

記、日本記、この説々とお



### 筑前名所図會 宗像神社辺津宮

命。第二神者、示居中海之息、今号大鳥是也。厳重奇瑞多之屑、是奉号瀛津姫命。第三神者、示居於海辺、今号田島是也。居海浜是奉号田心姫命、云々といへり。

此外八さまさまあやしき事などを記して、上古の物ともおはし。

此社記は、後花園天皇文安元年に、大宮司氏後、上代の社記を改め書きたりといふ。三柱の御まし所、古の社記に見えたと、古事記、日本記、この説々とお

なつたので、それらを入れて、流れ着くもの(二四〇項目)掃り揚がるもの(一項目)に加え、漂着物の民俗と歴史、各地の漂着物採集と研究、漂着と環境をテーマに編成、写真、図版四〇〇点、巻末には統索引を付しました。西日本新聞「春秋」五月十四日付、「新編漂着物事典」その本を読むと、パラソルの縁のようには松原の価値を教えられる海のかなたから流れ寄る物たちが語る民俗や歴史、最近には漂着物の変化も著し。朝日新聞天声人語五月二日付、「新編漂着物事典」を繰ると、時間のたつのを忘れる。あいにく海までは遠い。「連休は分厚いこの本で遊ばせてもらおう。」週刊文春五月二日号、私の「読書日記」池澤夏樹「漂着物事典」の新編が出た。「前の版を持っていたのに、新しい版が出る、ついでにまた読む。読ませるだけの力のある美しいエッセイ集なのだ。」定価三八〇〇円十税。

のおの異にして、何れともわきがたが中に、瀛津宮の市村島姫にまつこは、神の御後威の殊に勝れ玉へるによそりたる御名にませば、何の疑かあらん。

安室にも、此宮を迂し祭りて、厳島といふ。市村島姫のませばなり。

この社記に筑前の思賀島より迂し奉るよし記せりといへり。今も筑紫人津津島を呼ぶおきの思賀といふとが出来る。

又、この田島の宮を瀛津島姫命といはんか。

旧事記に大己貴命云々辺宮坐神、高津姫命ヲ娶り、事代主命生さし、此御神の御裔、吾田片陣命也、といへれば也。

二)が印するは、後漢書「東夷伝」にみる、後漢の光武帝の五七年(弥生時代中期)に、倭の奴国が朝貢して受けたものと伝えられている。

二)三十九年の「魏志倭人伝」では倭国が統一されつつある状況の足掛りを見出すことが出来る。

時代が変わり新しい時代考古学という古墳時代(四世紀)七世紀後半頃)に入ってくる、いままで「ムラヤクニ」と「クニ」などの日本各地の豪族による群雄が割拠する時代も終り

と通交を行う(日本書紀「朝野群臣」に日本府を成立(日本書紀)して

●三七一年(百濟王)七支刀(石上神宮藏)・国玉を倭王に贈る(日本書紀)と、記されているように、この頃になると、大和王権が朝鮮半島へ侵攻していったことが知られる。

と通交を行う(日本書紀「朝野群臣」に日本府を成立(日本書紀)して

●三七一年(百濟王)七支刀(石上神宮藏)・国玉を倭王に贈る(日本書紀)と、記されているように、この頃になると、大和王権が朝鮮半島へ侵攻していったことが知られる。

と通交を行う(日本書紀「朝野群臣」に日本府を成立(日本書紀)して

●三七一年(百濟王)七支刀(石上神宮藏)・国玉を倭王に贈る(日本書紀)と、記されているように、この頃になると、大和王権が朝鮮半島へ侵攻していったことが知られる。

と通交を行う(日本書紀「朝野群臣」に日本府を成立(日本書紀)して

●三七一年(百濟王)七支刀(石上神宮藏)・国玉を倭王に贈る(日本書紀)と、記されているように、この頃になると、大和王権が朝鮮半島へ侵攻していったことが知られる。

## 古墳、神皇

(48)